

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	田原市児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日 ～ 令和7年1月24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日 ～ 令和7年1月24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・田原市児童発達支援センターは、保育士、児童指導員、言語聴覚士、臨床心理士、看護師、相談支援専門員、調理員等があり、様々な専門性を持ったチームアプローチが可能であること。	・利用者の方やその保護者の方々に様々な職種が関わり、それぞれの専門性からサポートを行えるように、随時相談できるようにしている。また、児童発達支援計画を作成する際にもそれぞれの専門性から話し合い、支援方法を検討している。	・チームアプローチの充実や受け入れられる児童の幅を広げるために必要な専門職の確保を検討している。
2	・単独通園と親子通園の2つの通園スタイルがあるため、ご家族のライフスタイルや利用児の状態に合わせた支援を行いやすいこと。また、親子通園があることによって、充実した家族支援が行いやすいこと。	・利用前や利用中もご本人やご家族と定期的に面談することにより、その時々に合わせて通園スタイルを見直したり、考えたりしている。また、親子通園を利用していただいているご家族には、ご本人との関わり方について実際の場面を通して丁寧に検討し、より高度な専門性が必要な場合は専門職の相談を勧めている。単独通園利用の方は毎回の支援の取り組みや支援方法について都度知らせるようにしている。	・さらに充実した家族支援を行うために、ご本人やご家族が『やってみよう』と思えるような活動や支援方法を準備し、わかりやすい方法で具体的にご提案できるように、事業所として研鑽していく。
3	・地域にある保育園・認定こども園・学校と連携をこまめにとっていること。	・ご家族の同意を得て、互いに連絡をこまめに取り合い、支援方法の検討などを随時行っている。	・就学後も地域支援が行えるように、保育所等訪問支援事業を実施したり、巡回相談が行えないか検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所等訪問支援事業の実施件数がないこと。	・保育所等訪問支援事業に関する広報が十分ではなく、保護者に十分な周知がされていない。	・利用していただけるように広報を行ったり、訪問先との関係作りを継続して行っていく。また、地域支援として巡回相談の実施も検討していく。
2	・施設の老朽化やバリアフリー化が不十分であること。	・廃園した保育園を再利用しているため、老朽化が激しく、バリアフリー化されていない。	・限りある予算の中で少しずつ修繕を行っている。障害福祉施設として、充実した施設を今後も目指したい。
3			